

# 「普通のことを普通にする」 養護教諭の応急処置で 大事にしたい視点

現在、小誌連載中の「応急処置アップデート」でおなじみの玉川進先生。

「難しい医学の知識についてわかりやすく学べる」「最新の情報も盛り込まれていて、とても参考になる」という声が、数多く編集部に寄せられています。

そこで、玉川先生に、応急処置について養護教諭が押さえておきたい基本的なポイントをはじめ、連載への思いや養護教諭へのメッセージなどについて伺いました。

取材・構成：ひだいますみ（スタジオ・ペンネ）

「応急処置アップデート」  
玉川進先生インタビュー

たまかわ・すすむ  
独立行政法人国立病院機構旭川医療センター  
病理診断科臨床検査科部長。昭和37年北海道生まれ。医師、医学博士。旭川医科大学卒業後、旭川医科大学病院麻酔科、自治医科大学集中治療部、旭川医科大学第一病理学講座を経て現職。主な著作は『先生！大変です！救急車を呼びますか!!』『特別支援教育ハンドブック』（東山書房）ほか。





### 心臓マッサージ、AED、エピペン®に注意！

——養護教諭にとって、応急処置は大変気になる職務の一つです。養護教諭が基本的に押さえておくべきポイントについて教えてください。

**玉川進**（以下、玉川）何らかの問題や事故が起こったとき、後で裁判になる恐れがあるのは、次の3つです。

- ①心臓マッサージ（心肺蘇生法の胸骨圧迫）
- ②AED（自動体外式除細動器）
- ③エピペン（アナフィラキシー補助治療剤）

これらについては、養護教諭の方々にも、いざというときに必要な処置ができるようにしておいてほしいと思います。

——心臓マッサージ、AEDなど心肺蘇生法について、現場で押さえておきたいポイントは？

**玉川** 実は、心肺蘇生のガイドラインは5年ごとに見直されています。現在は、2015年版が最新です。心臓マッサージの行い方、たとえば回数や強さの目安などは、5年前、10年前とは違います。人工呼吸についても思春期以降の生徒（中学生以上）にはしなくてもいいなど、さまざまな変更があります。そのため、「昔、学校で習ったから」「もう知っているから」と看過するのではなく、新しい情報を積極的に学んでほしいと思います。

——AEDは急速に普及し、今ではほとんどの学校に設置されています。AEDの注意点は？

**玉川** AEDは誰でも使えるように工夫されていますが、とっさの事態に直面したときに冷静に使えるように、設置場所や使い方を確認しておくことをおすすめします。——エピペンについては、どうでしょう？

**玉川** アナフィラキシーショックといえば、ハチに刺されるケースが有名です。一方で、蕎麦アレルギーの子に処方されている場合があります。エピペンを持っているのがわかっているなら、必ず使ってください。

——つまり、知識や情報のアップデートが必要なのですね。

**玉川** その通りです。「応急処置アップデート」でも、新しい情報を取り入れて紹介していきますので、ぜひ参考にしてください。

### 最も大切なのは 常識的に判断すること

——講演会や養護教諭向けの勉強会などの機会も多いですね。

**玉川** 地元・北海道の他、日本各地で応急処置についてお話ししています。その際、養護教諭の方からの質問にはできるだけ答えるようにしています。「こういう事例で、こうした処置をしましたが、正しかったでしょうか？」「Aという処置をしたが、Bという方法をとるべきだったのでしょうか？」などと質問されることが多いですね。——その答えとして、「こうすべきだった」「この処置が正しい」などのアドバイスをされるのですか？

**玉川** いえいえ、その必要はありません。みなさん、実にしっかりと勉強し、必要な行動をしていらっしゃるから。この場を借りて、「皆さん、間違っていないよ」と伝えたいです。自らの処置を不安に思う必要はなく、もっと自信をもってほしいと思います。

——しかし、応急処置について、不安に感じる養護教諭も多くいます。患部の固定や冷却の仕方を医師に叱られたというケースもあるようです。

**玉川** それは、「たまたま医師の機嫌が悪かっただけ」と、ある程度、受け流してください（笑）。医師も人間ですから、そういうこともあると。たいていの場合は、救急患者を病院へと引き継ぐ間に、正しい応急処置がなされています。——病院へとつなぐ応急処置において、最も大切なことは？

**玉川** 普通のことを普通にする、それだけでいいと思います。

——緊急を要さない、応急処置については？

**玉川** 先ほど情報のアップデートが必要だと言いましたが、テレビ番組で取り上げられる健康情報をうのみにするのは危険です。たとえば、8月号で取り上げた湿潤療法。テレビ番組を通じてパッと広まりました。医師としては、確かに効果的であるとは思いますが。しかし、学校現場で行うのは、現実的かどうか…（小誌8月号参照）。その他、柔道などによるケガも、無理に自己流で治そうとせず、ひとまず固定して病院へつなぐのがベストです。新しい情報についても、一般的な常識と照らし合わせて使いこなしてほしいと願っています。

### 養護教諭への応援メッセージ

——連載を通じて、読者に伝えたいことは？

**玉川** 出来るだけわかりやすいよ

うに、文字数を少なくしたり、イラストや写真を入れたりしています。今後、捻挫や頭痛などの情報もアップデートしていきたいと考えています。毎回の連載も、これまでに出した2冊の書籍（弊社刊『先生！大変です！』シリーズ）も、皆さんの役に立てばうれしいです。

——養護教諭にメッセージをお願いします。

**玉川** 養護教諭は、保護者から学校で唯一の医療従事者のように思われることもあり、重い責任を感じる人も多いと思います。出来そうにないことでも、やらなくてはならないような雰囲気にも包まれることもあるかもしれません。かなり大変だと思います。でも、決して無理をする必要はありません。「出来ないことはしないで、病院

へGO！」で十分です。

——年代別にアドバイスはありますか？

**玉川** 年代別というより、共通のこととして、ベテランの養護教諭も若手も、勉強は必要です。ベテランの方は新しい情報の収集と知識の見直しが必要ですし、若手の方は経験値が低いことから、どうしても不安度が高くなってしまいます。やはり知識をつけることが大切だからです。養護教諭が常に学ぶ姿勢を大切にすることが、子どもの健康や命を守ることにつながると思います。最後にもう一度繰り返しますが、ぜひ覚えていてほしいのは、皆さんが日頃実践されていることは、間違っていないということ。これからも、自信をもって日々の仕事に頑張ってほしいと願っています。



玉川進先生が監修を務める応急処置についての2冊『先生！大変です！救急車を呼びますか!!—緊急度の判断基準とその対応—』『先生！大変です！どうしたらいいですか!!—応急処置の実践—』（共に弊社刊、1800円＋税）も好評発売中です。どちらも応急処置の仕方をカラー写真を豊富に掲載して、わかりやすく解説しています。